

代表機関：国立循環器病研究センター

循環管理 Navigation 機能を搭載した次世代循環モニタの開発

分担機関：合同会社SimArthur、国立病院機構京都医療センター、東京電機大学

研究期間：令和6年4月～令和7年3月

研究目的・内容

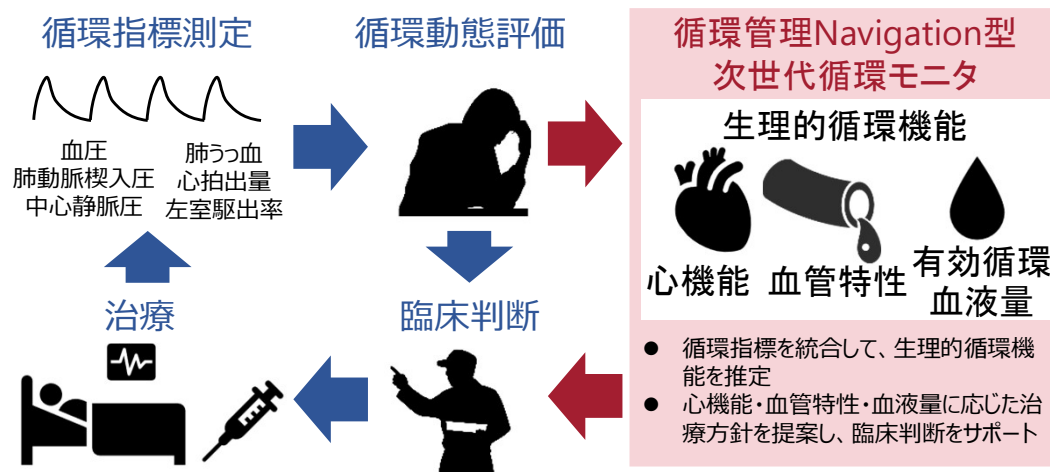
- 血圧、心拍出量といった循環動態は、心臓が血液を全身に送り、また心臓に還ってくる血液循環における、心臓の機能、血管の特性、有効血液量などの要素（生理的循環機能）によって構成されています。
- 血圧などの循環動態指標から、患者の心臓・血管・有効血液量がどうなっているのかを推定し、それぞれに対応した治療を選択しますが、十分に習熟した医療スタッフであっても適切な評価と判断は容易ではありません。
- 本研究では、循環生理学に基づいたフレームワークを活用し、循環動態を可視化し、適切な治療へとNavigationする循環機能モニタを開発を目指します。

今後の展開

- 患者の複雑な循環動態をリアルタイムに分かりやすく可視化し、適切な評価・臨床判断へとつなげます。
- 適切な病態評価及び臨床判断は、集中治療を最適化することが期待できます。

クラス分類：Ⅲ相当

根拠を持った臨床判断支援により集中治療を最適化する



循環生理学に基づいたフレームワークにより循環機能を推定できる

